

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東京電子専門学校	昭和51年 10月1日	新休 能士	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人電波学園	昭和30年 9月27日	山口 広泰	〒170-8418 東京都豊島区東池袋3-6-1 (電話) 03-3982-3131			
目 的	プログラマ、システムエンジニア、ネットワーク/サーバ技術者など、IT全般の職種に関わるほぼ全ての分野の学習をすることで、幅広い知識と専門性を兼ね備えた技術者の育成を目指す。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課程	情報処理科	2年(昼)	1700単位時間 (100単位)	平成7年文部科学大臣告示第7号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
システム開発コース		1020単位時間 (68単位)	単位時間 (単位)	単位時間 (又は単位)	1050単位時間 (53単位)	単位時間 (単位)
生徒総定員 *1	生徒実員 *1	専任教員数 *1	兼任教員数 *1	総教員数 *1		
380人	143人	7人	15人	22人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 評価基準は80点以上をA, 70点以上79点未満をB, 60点以上69点未満をC, 59点以下を不可とする。 成績評価は試験、平常の成績、実習等の成果物により行う。	

長期休み	<p>■学年始め：4月1日</p> <p>■夏季：7月20日～8月31日</p> <p>■冬季：12月20日～1月7日</p> <p>■学年末：3月31日</p>	卒業・進級条件	<p>■卒業条件</p> <p>教務で定めた必修科目を修得し(成績評価がC以上)、必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC以上)の総時間数が1700時間以上、かつ取得単位数が100単位以上取得した者</p> <p>■進級条件</p> <p>必修科目、選択必修科目を含めた修得科目(成績評価がC以上)の総時間数、及び総単位数が教務で定めた時間数、単位数を超えた者</p>
生徒指導	<p>■クラス担任制(有・無)</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応</p> <p>保護者との連携、個人面談、電話・メール連絡、補講</p> <p>心理カウンセラーのカウンセリング</p>	課外活動	<p>■課外活動の種類</p> <p>企業との勉強会、学内セミナー、学園祭、インターンシップ</p> <p>■サークル活動(有・無)</p>
就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等</p> <p>IT業界、システムインテグレータ等</p> <p>■就職率^{*1} 87%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{*2} 83%</p> <p>■その他(任意)</p> <p>(平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)</p>	主な資格・検定	<p>基本情報技術者、ITパスポート、CompTIA A+、MTA、Oracleマスタ、CCNA、LPIC、ドットコムマスタ、MOS</p>
中途退学の現状 *1	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 6.8%</p> <p>平成28年4月1日在学者147名(平成28年4月入学者を含む)</p> <p>平成29年3月31日在学者141名(平成29年3月卒業生を含む)</p> <p>※他学科からの転科生、他学科への転科生有り</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>経済的理由、家庭の事情、体調不良</p> <p>■中退防止のための取組</p> <p>保護者との連携、個人面談、三者面談、電話・メール連絡、心理カウンセラーのカウンセリング、学費のための相談員配置、補講実施</p>		
ホームページ	URL: http://tokyo-ec.ac.jp		

*1 コース分けは1年後期からのため、学科合計の情報を記載

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学

生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、実務を行っている技術者が授業を行う事で、最新の技術動向にあった、また実務ならではの技術を習得することが出来る。また、技術者向けの研修を行っている教育ベンダから講師派遣を受けることで、やはり最新の技術動向にあった、また企業人と同じ内容の授業を実施することが出来る。
- ・委員会の意見を元に授業内容の変更や、科目の新設などが柔軟に行えるような体制を取っている。
- ・実務で必要と思われる内容の授業について、共同でシラバス開発を行い、それを実際の授業科目として実施している。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名前	所属
大野 真	CloudStack協会 会員
沖野 仁美	(株) テクニカル・ジィ
砂賀 勝己	東京電子専門学校 情報学部学部長
成田 与志子	東京電子専門学校 情報学部教員
稲垣 高宏	東京電子専門学校 情報学部教員
塚田 敏彦	東京電子専門学校 副校長
山口 勝広	東京電子専門学校 学園本部 副本部長
山口 真弘	東京電子専門学校 学園本部

(開催日時)

平成28年度-第1回 平成28年9月29日 13:00~14:00

平成28年度-第2回 平成29年3月16日 15:00~16:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

- ・IT業界は特に技術進化の激しい業界であるが故に、現場で実務に関わる技術者が授業を行う事で、最新技術や実際に実務で必要となる技術の習得が出来る体制を取っている。
- ・企業向けの研修を行っている教育ベンダの講師が授業を行うことで、実際に新人教育やキャリア教育などで行われている内容と同じものを受講させている。これらにはIT技術のみならず、所謂コミュニケーション能力など基礎的な社会人を向上させるような内容も含めている。
- ・企業と共同でシラバス開発を行う事で、頼実務に即した内容の授業を行える体制を取っている。
- ・授業の内容や進め方、科目の変更等については企業から派遣された講師の意見や、教育課程編成委員会の意見を柔軟に取り入れるようにしている。
- ・授業だけでは得られない知識の習得を目的とし、不定期に企業や業界団体の方によるセミナーや講演会、イベントの開催や、インターンシップの実施をしている。これらの一部については課外活動の一環として単位認定を行っている。

<企業連携を行っている科目>

科目名	科目概要	連携企業等
システム設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェア開発の上流工程の流れについて学習する。また、現在主流のオブジェクト指向で使われるUMLを通して、モデリングの概念や手法について学習する。 ・実習を取り入れることで、実際の作業方法や内容について理会を深める。 ・システムの設計を行う上で必要となる知識を、テキストレベルだけではなく実務で必要な内容と併せて学習する。 	(株)システムプロダクツ

アルゴリズムⅢ	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では最新技術や応用力も大事だが、その元となるITの基礎力をしっかりと身につけることが非常に重要と考えており、実際学校評価委員会等、各種委員会でも企業の方などから同じことの指摘を受けることが多い。 ・このような背景からプログラミングの基礎となるアルゴリズムに関する内容の技術を、実際に企業・技術者目線で講義をしてもらい、実務にどう関わり何が必要か、開発手法の基礎をしっかりと学ぶこと目的として企業・技術者による授業を実施している。 	(株)ITATI
---------	--	----------

3. 教員の研修等

- ・民間企業での研修(派遣型)を通して、民間企業の現状を知り、必要とされる人材等についての動向を得るなど、外部で無いと分からない、体感できないことに対して積極的に取り組むよう努めている。
 - ・外部の技術セミナー等に参加をし、現在の技術動向の習得に努めている。
 - ・外部の所謂教え方に関するセミナーや研修会に参加をし、授業の質の向上、学生が頼興味を持てる授業の実施が出来るよう研鑽をしている。
 - ・必要に応じ、企業から講師を招いて最新技術や需要の高い技術に関連するセミナーを開催している。
 - ・学期ごとに学生による「授業アンケート」を実施し、校長室より個々の教員に結果を示した上で改善点を指摘し、よりよい授業となるよう改良・改善に努めさせている。
 - ・「公開授業」という形で、評価の高かった教員の授業を参観させ、個々の授業の参考とするようにしている。
- なお、公開授業は学内の教員だけではなく、非常勤も対象としており、その中には企業から派遣されている講師なども含まれる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名 前	所 属
岡本 真梨子	株式会社エスキャリア
喜多村 貞一	エーアイテクノロジー株式会社 代表取締役社長 本校卒業生
松金 隆夫	医療法人財団 松圓会
吉田 隆	株式会社サンリツ

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://www.tokyo-ec.ac.jp/campus/data/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.tokyo-ec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科 システム開発コース) 平成29年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			Java 文法 I	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	1 前	30	2	○		
	○		Java 文法 II	Javaによるプログラミング技法、オブジェクト指向の概念について学習する	1 後	30	2	○		
○			Java 演習 I	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	1 前	60	3			○
	○		Java 演習 II	Javaによるプログラムを演習を通して作成し、学習する	1 後	60	3			○
○			モバイルアプリケーション開発	スマートフォン・タブレット向けプログラムの作成方法について学習する	2 前	60	3			○
○			C言語文法	C言語でのプログラミングの基礎から応用、より実践的なプログラミングの手法について学習する	2 後	30	2	○		
○			C言語演習	C言語のプログラムを演習を通して作成し、学習する	2 後	60	3			○
○			CASL II 文法	基本情報技術者試験に出題されるCASL IIの文法について学習する。試験に出題されるプログラムのロジックが解析できるまでを目標とする。	1 後	30	2	○		
○			CASL II 演習	基本情報技術者試験に出題されるCASL IIのプログラムを、演習を通して作成し、学習する。	1 後	30	1.5			○
○			Webプログラミング	Webサーバ上で動作するPHP言語による動的なページの作成手法について学習する。また、サーバ側で行われるデータベース処理の手法についても学習する	2 前	60	3			○
	○		応用プログラミング	C#などのWindows プログラムや、.NETプログラムの開発手法について学習します	2 後	60	3			○
○			Oracle I	Oracleデータベースのインストールから設定、SQL文などについて学習します	2 前	60	3			○
	○		Oracle II	Oracleデータベースのインストールから設定、SQL文などについて学習します	2 後	60	3			○

○		システム設計	システムの計画、設計、開発、テストおよび運用までの各工程における作業内容、およびデータを中心とする設計技法を学習します	2 前	30	2	○		
○		UML	UMLで使われる用語・概念・表記法に対する知識とモデルの意味を理解する能力を身に付けます	2 後	30	2	○		
○		UNIX I	UNIXの概要から、操作方法、コマンドについて、繰り返し演習して学習する	2 前	60	3	△		○
	○	UNIX II	UNIXの概要から、操作方法、コマンドについて、繰り返し演習して学習する	2 後	60	3	△		○
○		卒業制作	総合的な演習として各自またはグループでテーマを設定し、設計（企画）から制作、成果発表を行う	2 後	90	4.5			○
○		ハードウェア I	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
	○	ハードウェア II	コンピュータ・パソコンの基本的な原理（ハードウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
○		ソフトウェア I	コンピュータ・パソコンの基本的な利用技術（ソフトウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
	○	ソフトウェア II	コンピュータ・パソコンの基本的な利用技術（ソフトウェア）の知識を学習する	1 前	30	2	○		
○		アルゴリズム I	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1 前	30	2	○		△
	○	アルゴリズム II	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する	1 前	30	2	○		△
	○	アルゴリズム III	フローチャートや構造化チャートを使って、プログラミングの考え方や追跡（トレース）手法を学ぶ。さらに、代表的なアルゴリズムについても学習する。	1 後	30	2	○		△
○		ネットワーク	LANやWAN、ネットワークサービス、TCP/IPについて学習する	1 前	30	2	○		
○		インターネットテクノロジ - I	インターネットの仕組みやWeb、メール、ネット上のサービス、プロバイダ、関連法規について学習する。ドットコムマスター取得に必要なスキルを習得する	2 前	30	2	○		

	○	インターネットテクノロジーⅡ	インターネットの仕組みやWeb, メール、ネット上のサービス、プロバイダ、関連法規について学習する。ドットコムマスター取得に必要なスキルを習得する	2後	30	2	○		
○		データベース入門	データベースの概念とリレーショナルデータベースの操作、SQL言語について学習する	1後	30	2	○		
○		ホームページⅠ	Webページの基本となるHTML・CSSを習得しながら、Webページの設計方法、スタイルシートの適用方法を学ぶ	1前	60	3			○
	○	ホームページⅡ	Webページの基本となるHTML・CSSを習得しながら、Webページの設計方法、スタイルシートの適用方法を学ぶ	1後	30	1.5			○
○		セキュリティⅠ	ウイルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	1後	30	2	○		
	○	セキュリティⅡ	ウイルスやハッカー対策、暗号化通信の仕組みなど、ネットワークの安全な利用に欠かせないセキュリティ管理手法について学習する	2前	30	2	○		
○		文書編集入門	マイクロソフトWordを使用してワープロソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す	1前	30	1.5			○
○		表計算入門	マイクロソフトExcelを使用して表計算ソフトの基本的な操作方法、利用方法を学び、オフィススペシャリストの取得を目指す。また、基本情報技術者の午後問題の対策も行う	1前	60	3			○
○		経営	国家資格である基本情報技術者の経営・マネジメントの内容について学習する	1後	30	2	○		
	○	情報数学	国家資格取得に必要なとなる数学の知識について学習します	1後	30	2	○		
○		基本情報午前対策	国家資格である基本情報技術者試験の午前分野に関する対策を行う	1後	30	2	○		
○		基本情報午後対策	国家資格である基本情報技術者試験の午後分野に関する対策を行う	1後	30	2	○		
	○	国家試験午前対策	国家資格である基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午前分野に関する対策を行う	2前	30	2	○		
	○	国家試験午後対策	国家資格である基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後分野に関する対策を行う	2前	30	2	○		
○		基礎学力Ⅰ	中学、高校の数学や英語、国語の復習を通してコンピュータ業界で必要とされる基礎学力の向上を図ります	1前	30	2	○		

	○	基礎学力Ⅱ	中学、高校の数学や英語、国語の復習を通してコンピュータ業界で必要とされる基礎学力の向上を図ります	1 後	30	2	○		
○		一般常識Ⅰ	社会人として必要な一般知識（漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養）を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	2 前	30	2	○		
	○	一般常識Ⅱ	社会人として必要な一般知識（漢字の読み書き、計算、文化など日常的な教養）を身につけるとともに、就職対策としてSPIなども練習する	2 後	30	2	○		
○		基礎英語	情報処理用語が読める程度の基礎的な英語力を身につけるとともに、電子メールなどコミュニケーションに役立つ基礎的な英語力も養う	2 前	30	2	○		
○		関連法規	コンピュータ業界で必要とされる著作権や個人情報保護法など関連する法律知識を身につける	1 後	30	2	○		
○		就職対策	履歴書の書き方や会社訪問の際の手順、注意事項、面接対策など就職活動に必要、かつ役立つことを学習する	1 後	30	2	○		
○		ビジネスマナー	ビジネス社会での電子メールの書き方、名刺の交換、送付状や手紙の書き方などビジネス社会で必要となることを習得する	2 前	30	2	○		
○		表現技法Ⅰ	正しい文章を作成するための基本的な知識を習得してから実務に役立つ文章作成能力を身につけます	2 前	30	2	○		
	○	表現技法Ⅱ	正しい文章を作成するための基本的な知識を習得してから実務に役立つ文章作成能力を身につける	2 後	30	2	○		
○		プレゼンテーション	PowerPoint の使用方法、プレゼンテーションの資料作成の方法、発表の手法などについて学習する	1 後	30	1.5			○
○		簿記Ⅰ	損益計算書、貸借対照表、財務諸表、会社組織の仕組み、株式など企業会計や簿記について学習する	2 前	30	2	○		
	○	簿記Ⅱ	損益計算書、貸借対照表、財務諸表、会社組織の仕組み、株式など企業会計や簿記について学習する	2 後	30	2	○		
	○	課外活動Ⅰ	各種セミナー、ボランティア、インターンシップなど	1	15	1			○
	○	課外活動Ⅱ	各種セミナー、ボランティア、インターンシップなど	2	15	1			○
○		体育Ⅰ	ハイキング、学園祭	1	60	3			○
	○	体育Ⅱ	ハイキング、学園祭	2	30	1.5			○